

長野式臨床研究会

平成19年 マスタークラス 東京セミナーQ&A

第6回 平成19年12月16日分 講師 長野康司

長野式臨床研究会ホームページ <http://www.naganoshiki.jp/>

質問1 期外収縮の処置法には「瘀血処置」「副腎処置」「太白」「三陰交」とありますが使用の際、順序はありますか？

まずは瘀血処置、副腎処置を行い、その後太白及び三陰交の順に使ってください。

質問2 シェーグレン症候群の治療の説明の際、唾液が出にくい症状にはリウマチの場合と口腔の乾燥の場合があるとご説明がりましたが、見分け方がありますか？

見分け方は問診と医療機関での検査の結果により判断します。

質問3 期外収縮の脈状で「緊・遅」の場合、「緊脈」と「遅脈」のいずれかの処置を先にすればよいですか？

先に「緊脈」の処置を行ってから「遅脈」の処置を行います。脈状が好転しない頑固なものは、専門医に診て貰うように促がして下さい。

質問4 「任脈」「督脈」への刺鍼の際「任脈に補法」「督脈に瀉法」と云う使い分けはありますか？

特にそのような使い分けはありません。

質問5 「中脘」の圧痛に対して「胃経の気・水穴処置」を行う場合、全く圧痛が消失するまで行うのですか？

頑固な圧痛であるならドーズを気にしながら少し変化したらストップしてよいです。胃酸過多の場合は「胃の気3点処置」「胃経の気・水穴処置」は行いません。